

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
83	川崎市立稗原小学校	菅原 隆宏

学校教育目標	今年度の重点目標
豊かな心とたくましい体をもち 主体的に判断し行動できる稗原の子 ○よく遊び、よく学ぶ子 ○認め合い、助け合う子 ○粘り強く、挑戦する子	I. 新しい社会を創り出す能力や態度の育成に取り組む II. 児童相互理解と人権尊重を大切にした豊かな心づくりに取り組む III. 現代諸課題、喫緊な課題に取り組む IV. 開かれた学校づくりに取り組む

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
今年度の重点目標 I・II	1 「確かな学力」を育む教育活動	○分かる授業、楽しい授業のために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることで、学ぶ意欲を育て「確かな学力」を育む。・基礎基本の定着に向けた学習態勢の構築、・GIGA端末活用の推進、・校内研究の推進、・専科・交換授業など学習形態を工夫した学びの向上、・地域連携による基礎学力の向上、・思考力や人間関係をつくる力を育てるための言語活動の充実、・実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流など、リアルな体験を重視等	・対話による考えの比較や取入れができるようになってきているが、発言に偏りが見られる。GIGA端末やノート等の資料提示と共に説明する力をつけていきたい。・基礎学力の向上を目指して、15分モジュールの年間指導計画を作成したので、今年度の見直しと子ども一人一人の特性や学習進度に応じた教材の提供ができるよう配慮する。・専科や教科担任制推進加配、交換授業などを行い、「チーム学年」による児童への指導支援を図る。・低学年の算数指導補助「学習支援ひえばら」を継続し、基礎学力の向上、定着に努める。
	2 「豊かな心」を育む教育活動	○社会で自立して生きていくための資質・能力や態度と共に共生・協働の精神育成を通して人と関わる力を育む。・効果測定を活かしたかわさき共生＊共有プログラムの効果的な活用(SOS教育)・支援教育コーディネーターを中心とした支援教育の推進、異学年交流の推進・年3回の学校生活アンケート実施による、個人の内面の把握や学級で起こっている諸問題の実態の早期発見等	・主体的にかかわり合うたてわり活動の在り方を構築してきた。児童の実態・計画の実際・実施状況・課題などを検討し、PDCAサイクルを通して、より良い活動となるよう更新してきた。・支援教育COを中心に、学校カウンセラーやSSW、デイサービス、わくわくプラザ等と連携し相談体制の充実を図った。かわさき共生＊共有等、内容を効果的に実践し、効果測定の結果を生かしながら、自分づくり、友だちづくり、仲間づくりに役立てることができた。
	3 「健やかな体」を育む教育活動	○将来に向けた社会的自立に必要な能力・態度を培うと共に、体力向上や食育の充実などを通して育む。・体力向上に関わる取組の推進・健康安全指導と学習等における安全配慮対応の充実・精神的な自立に向けての指導・支援、食育(望ましい食習慣)の推進・みんなの校庭プロジェクトの推進等	・保健教育と食育を通して、健康や安全についての関心・意欲・態度を高めた。・体育の教科担任制や交換授業を積極的に行い、教材・教具及び場の設定等に関する安全配慮について、検討し事故防止に努めた。・スポーツのまちの重点施策のキラキラタイムの充実と実業団・NPO等の体育授業における連携などにより、スポーツを楽しむ子を育成することができた。・今後も継続とする。
III	4 現代課題・喫緊な課題に取り組む教育活動	○現代諸課題や喫緊な課題について、先を見通した指導計画や教育環境整備を行い、学校の教育力を高める。・危機管理に関する見識を深め、児童の安全管理や健康管理に努める。・学習状況調査等の分析をもとに、児童につけたい資質能力を客観的にとらえ、改善に取り組む。・創立40周年に関わる取組の創造・教職員の資質や能力の向上に向けた研修・研究の充実を図ると共に、働き方改革に取り組む。	・各校内外における安全な過ごし方の定着を図り、けがや事故を未然に防ぐよう掛けた。・創立40周年記念式典を行い、ふるさと川崎・稗原への愛着をもつことができた。また、各学年の創作表現活動を通して、一人一人の表現活動の充実が図られた。・学習評価の事例研修、単元づくりの中での3評価の位置づけを考えることが課題。・学力状況調査結果から児童の課題を見出し、指導の方向性と手だてを構築し、来年度の児童像に反映させる。
IV	5 開かれた学校づくりに取り組む教育活動	保護者や地域の方々々と創意工夫して子どもたちの成長を支えていく持続可能な協働体制づくりを通して地域の中で協力連携して育む。・学校運営協議会、学校説明会、懇談会等の充実を目指したアンケートの活用・地域諸団体との連携強化と交流活動の推進・学校ホームページの定期的な更新とミマモルメによる情報伝達・学習支援「ひえばら」の継続等	・学校ホームページの定期的な更新とミマモルメによる情報伝達を継続する。・学習支援「ひえばら」を継続する。地域教育会議委員の方のスケジュールを把握し、低学年クラスの入り込み学習を行い、基礎学力の伸長を図る。・学校評価システム(児童、保護者アンケート、自己評価の振り返り等)について、分析結果を基に、経年変化を探り、授業改善や学級の風土づくりに活用していく。

学校関係者の評価 (学校運営協議会のアンケートより抜粋)	学校運営のまとめ
【学習指導】○先生と子ども達との距離が近く、日ごろからの関係性がしっかり成り立っている。○学年ごとの成長が見られ、頼もしく感じた。GIGAで映し出す資料作りが大変ではないかと思った。○4年生で英語のヒヤリングをしていてびっくりした。【授業態度】○子ども同士のコミュニケーションが活発に行われている。○たくさんの意見を交し合う雰囲気がまさに「学び舎」だと感じた。○集中して授業を行っていた。○1年生の集中力には少しびっくりした。○積極的に手を挙げ、授業を楽しんでいる様子が印象的だった。【教室環境】○教室内に様々な色の掲示物があり、とても賑やかな空間づくりで、楽しく学べる環境だと思った。○机の上がとてもきれいで驚いた。○低層バリアフリーを十分に生かした環境を利用している。【全体的感想】○先生たちがとても明るく感じ、何より雰囲気がよい。それは児童にも感じられると思う。○学校側が抱えている問題や課題があったらこの場で共有できる機会になればらと思う。	○主体的・対話的で深い学びを授業改善の視点として、校内研究テーマ「思いを伝え、聞いて、深める国語」の3年目の授業研究に取り組んだ。児童の話すこと・聴くことの能力の伸長を目指し、「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」シートを指標として、各学年の児童の発達に応じたステップを設け、話すこと・聴くことを積み上げている。友達への考えに反応するように意識が向いていて、つなげて話すような姿勢が徐々にあらわれてきた。○児童支援COを中心に、教育的ニーズのある児童に対応するため、教育委員会・地域支援センター・SSW・巡回カウンセラー・児相・療育センター・わくわくプラザ・デイサービス等と連携する指導支援体制を整えてきた。ケースによって実効性・機動性・対応の柔軟性を考慮し、ケース会議チームを編成し、話し合いを設け、指導支援の方向性を同一にしてきた。継続して行っている。さらに、支援教育の視点を踏まえた個に応じた児童指導の推進を図っていく。○教員の働き方・仕事の進め方改革では、専科教員・教科担任制などの加配、学年内・学年間での交換授業、非常勤講師・教務・CO・管理職による教科指導など、担任一人で受け持つ教科・領域の数を減らしながら、自分が受け持つ教科・領域の教材研究が十分にできるよう配慮していく。